

がんばってます!!新大 Vol.3号

発行日：平成 19 年 8 月 7 日(火)

発行：新潟大学学生ボランティア本部『ボランち。』 URL：http://www.nuvc.info/ TEL：025-262-7530 Mail：gakuserv@adm.niigata-u.ac.jp

十九、二十四日にボランティアチームの一員として活動された、新潟大学学務部学生支援課 佐藤正司課長にお話を伺いました。

○ボランティアセンターでは、どんなことをされたのですか？

ボランティアセンターには、調整チーム、避難所チーム、ボランティアチームがあります。その中のボランティアチームに入って活動しました。ボランティアチームは受付、マッチング、電話対応、報告、資材の五つの班に分かれていて、私は、電話対応をしました。電話対応では、被災された村民のみなさんからボランティアの派遣依頼を受けることと、ボランティアの参加照会への応対をしました。

ボランティアの派遣依頼については、件数が少なく、村民の我慢強さを感じましたね。

○今回の活動を通してどんなことを感じられましたか？

個人的には、直接被災現場での活動に関わる方が良かったのですが、センターでの電話対応でも話してきたためにはなりませんでしたね。

また、センターでは大学職員以外はプロだったので、色んな勉強をさせて頂いた気がしますね。電話対応に関しては、隣に居た担当者の聴き方、話し方は勿論、要点を押さえた臨機な対応がとても上手くて、感心させられました。色々な人の努力でボランティアが活動できているのだと思いましたね。

ただ、私たちのようにプロではない人の存在も重要だと感じましたね。プロじゃないから

こそ気付くこともありますし、色んな考え方があってうまくできるのが本当の組織ですからね。

○ボランティアセンターのスタッフとして活動する上で、どんなことに気をつけましたか？

責任をとれないことを言うことはできませんし、できないことはきちんと断るようにはしましたね。ただし、できないと言うだけでなく、他に困っていることがないか聞いてみたり、元気になつてもらえるように気をつけました。

また、電話をかけてきた人は何かしら期待を持っているので、どんな情報を知りたいかの確に答えるために全体の動きをつかむ努力もしました。それから、電話の最後に「気をつけていらして下さい。」など、気遣いの言葉を掛けることも心がけましたね。

○最後に、学生や大学に居る人に伝えたいことはどんなことですか？

純粹に「何かしたい」、「自分のできることをしよう」と思っている人はぜひ、この機会にその想いを形にしてほしいですね。やらない限り学ぶことはできませんから。ぜひチャレンジして欲しいですね。

現地に行くって嫌な思いをすることもありますが、それでも、自分のためになります。ボランティア自体は必要とされているものですし、

自分のできることをしよう。

やらない限り学ぶことはできませんから。



学生支援課 佐藤正司 課長

いつもニコニコ。現地では、調整チームとして活躍されました。

何か疑問に思ったら「こうすれば良いのに」と自分なりに前向きに思えることが大切ですね。学生に関しては、今ですね。若い人が故に感受性も高いので、今の時期に経験をさせて欲しいですね。学べることも多いですし、インパクトも大きい。頭でつかちの人間にならないために、今回のボランティアを含めて勉強以外にも色々なことをして欲しいですね。学力もあって人間的にも立派な人になれると思います。

(聞き手)新潟大学学生ボランティア本部

中井美紗(法・4)